

早池峰山&岩手山山行報告

【山行日】2021年 10月 9~10日(土日)

【集 合】栃木市運動公園P AM 3:00

【費 用】マイカー1台 : 22,500円

【メンバー】CL:鈴木 SL石澤 廣瀬、藤原、

9日 晴れ 河原坊駐車場に車を止めて道路を歩き、小田越登山口より早池峰山をピストンで登り、川原坊駐車場に戻る。

栃木市運動公園P3:00=川原坊 P7:55/8:10~

小田越 8:50~五合目 10:20~早池峰 10:50/11:35

~五合目 12:20~小田越 12:50/13:00~川原坊

13:30/13:40=道の駅「はやちね」14:15/14:30=

ペンション「山賊」16:10



2年前に同じコースを計画したが、台風により中止を余儀なくされリベンジ山行を計画した。

ところが参加者が2名と少なく、再度皆さんに参加をお願いし何とか4名で催行することが出来た。

早朝3時に栃木市運動公園を出発し、東北道をひたすら北上して紫波ICで降り、県道25号線を進んで

川原坊の駐車場に着く。止めてある車は少なく、トイレに近いスペースに車を止めることが出来た。

準備を整えてトイレを済ませ、ストレッチを行ってから出発する。道路に出て左に進み、直ぐにコメガモリ

沢コースの登山口があるが、登山道崩落の為立ち入り禁止の札が掛けられている。そのまま道路を進むが、丁度木々が色づき始め朝日に照らされて美しい。会話を楽しみながらのんびり歩き、40分

で小田越の登山口に着いた。登山口には簡易トイレが並び、水道やベンチが設置されている。早池峰山への登山口は道路の左側にあり、樹林の中の木道を進む。樹林帯の登山道を抜けると御門口で



視界が開け巨岩が累積する山稜が望める。ここからは巨岩が重なった上を歩くので、岩に付いた踏み跡を確認しながら慎重に進む。早池峰山はハヤチネウスユキソウやナンブトラノオ等の固有種が咲き、7月の開花時期には大勢の登山者が押し寄せる。この時季花は枯れてしまったが、枯れた花が残っているので花の形は見る事が出来た。次第に傾斜がきつくなり、岩場の急登にあえいで登ると、大きな

岩がある五合目に着き休憩する。ここから少し登ると「天狗の滑り岩」と呼ばれる難所が現れる。巨大な一枚岩の岩壁だが、長い鉄ハシゴが掛かっているので慎重に登れば問題なく登れる。鉄ハシゴを登り切って、さらに岩場の急登を行くと平坦な道になり、ハイマツの中の木道を歩くようになる。このあたりはハイマツと岩塊が調和し、山稜は広々としてとても気持ちが良い。右からのニギリ沢コースを合わせ、アオモリトドマツの風衝木と巨岩が織りなす風景は、日本庭園のようである。もう山頂は直ぐそこで、岩場を登ると避難小屋がありすぐ上の台地が頂上である。台地の一角に早池峰神社奥宮があり、記念写真を撮る。写真を撮ったら風を避けて岩の間の陽だまり陣取り、少し早いランチタイムとする。

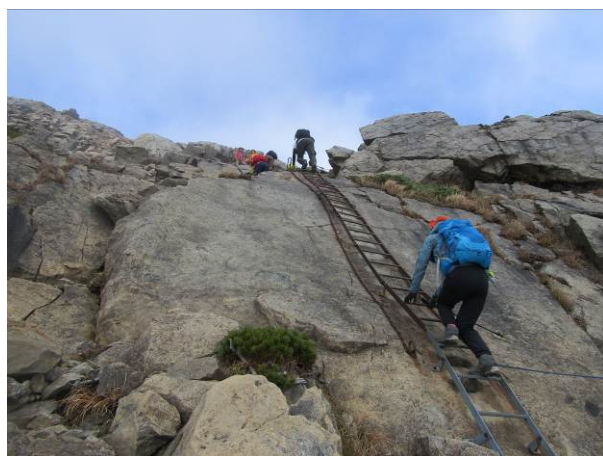


山頂はガスが掛かったり晴れたりを繰り返す、晴れると陽射しが暖かいがガスが掛かると風が冷たい。お湯を沸かしてカップ麺を作り、おにぎりと一緒にいただく。K澤さんのチャーシューと煮タマゴが出て、



豪華なランチを楽しんだ。お腹が満たされたら後片付けし、山頂標識の前で記念写真を撮って下山する。北側はガスが次々と湧いてきて眺望が無いが、南側は晴れていて早池峰山から薬師岳の紅葉が素晴らしい。ハイマツと紅葉の樹海を見ながら下り、この時季しか見られない素晴らしい景色に感動した。鉄ハシゴも難なく下り、無事に小田越の登山口に到着。ベンチでご褒美のプリンをいただき、道路を下って川原坊へ向かう。道路を下ると早池峰山が良く見える場所があり、ウワ〜ここ綺麗とスマホのカメラに収めていた。川原坊に着いたら靴を履き替え、今

宵の宿「山賊」に向かう。途中、道の駅「はやちね」に寄ってお買い物。リンゴやシャインマスカットが沢山並んでいたが、リンゴを購入して宿へと向かう。宿に着き受付を済ませると、今日の宿泊は我々の他1名とのこと。浴室とトイレが2つあるので、男女分かれて使用できた。風呂から上がった後食堂に移動し、奥のテーブルで反省会が始まる。最初はビール2本から始まり、H瀬さんが持って来た超高級酒「八海山大吟醸」をいただく。アルコールが入ると口が滑らかになり、会話も賑やかになる。御主人は山男で、山の話になると我々の会話に入ってくる。丁度八海山を飲み干した頃夕食の準備が出来、テーブルを移動する。夕食は豪華で、沢山のお料理が並び皆さん大満足の様子。



この宿の良い所は、山の出発時間に合わせて朝食を早く用意してくれ、温かい朝食を食べて出られるのでありがたい。明日の朝食を5時にお願ひし、部屋に戻ったら直ぐに就寝した。

10日 小雨 ペンションから馬返駐車場に移動し、馬返登山口から八合目避難小屋まで登り、強風の為山頂は断念し馬返登山口へ下山する。

山賊 5:40 = 馬返駐車場 6:00/6:20 ~ 五合目 8:20 ~ 七合目鉾立 9:20 ~ 八合目避難小屋 9:30/10:05 ~ 五合目 11:00/11:10 ~ 馬返キャンプ場 12:15/12:45 ~ 馬返駐車場 12:50/13:00 = 栃木市運動公園 P18:15

朝4時に起床し出発の準備をしていると、4時40分に「朝食の準備が出来ました」とご主人から声が掛



かる。食堂に行くと、朝食のおかずも豪華だった。野菜たっぷりのサラダや煮物、鮭の焼き物に定番の海苔、卵、納豆など食べ切れないほど並んでいる。我輩は半分以上残したが、H瀬さんとK澤さんは完食。昨夜も沢山食べ、今朝も完食するとは恐れ入りました。出発の準備をして外に出ると、なんと雨が降っているではないか。昨夜の天気予報は曇りで、午後は晴れてくる予報だったのに。ともあれ車に乗って、ご主人に見送られ登山口の馬返しに向かって出発する。途中から雨は止んで、馬返しの駐車場に着く。早朝にもかかわらず、多くの車が止まっているので驚いた。準備を整えたらすぐ先にあるトイレに移

動し、トイレを済ませる。さらにキャンプ場の広場まで移動し、ここでストレッチを行ってから出発する。

登山口は広場の右側にあり、雑木林の中を下って行く。下り切ってから右の尾根を登り、登り切ると又少し下って登ると平坦な場所に出る。0.5合目の標識があり、「エ～まだ0.5合目だって。結構登ったよね」と不満そうな声。ここから登山道が二手に分かれるが、我々は左の巻道コースを登って行く。滑りやすい急坂を登って行くが、紅葉はまだ見られない。さらに登るとコースが合流し、1合目の広場に着く。



大勢の登山者が休憩していて、我々も休憩を取り衣服調整と水分を補給する。このあたりから紅葉が始まっており、木々が色づいてはいるがあまり綺麗ではない。この先はザレた登山道を登り、2.5合目から新道コースと旧道コースに分かれる。我々は左の旧道コースを登ることにしたが、この選択が良くなかったようだ。展望が良い尾根を登るので、左側の谷から風が吹き

付けとても寒かった。さらにガスが掛かり、メガネが直ぐに曇って足元が良く見えにくい。何回もメガネを拭くが直ぐ曇り、メガネをかけた3人には地獄の登りが続いた。ザレた岩場の登りが続き、強風で休憩する場所も無く1時間以上登り続けた。5合目でようやく風が弱い場所を見つけ、小休止しミカンや菓子を食べて足を休める。そんな状況下でも皆さん弱音を吐かず、黙々と登り続けて七合目の鉾立まで登って来た。ここは石祠が置かれ展望抜群の場所だが、今日は何も見ることが出来ない。ここで新道と合流し、ハイマツの平坦な道を進むと大きな八合目避難小屋が見え、広場に飛び出る。広場に出た途端強風にあおられ、体が飛ばされそうになる。とりあえず八合目避難小屋に入り、この後の対応を考えることにする。避難小屋には地元の山岳会の方達が世話してくれ、登山靴を脱いでビニール袋に入れ中に入れて休憩する。温かいコーヒーが1杯100円で飲み、持参した菓子を食べながらい



ただ。板の間に座って休んでいたら、毛布を出して敷いてくれありがたかった。トイレも中から利用でき、悪天候時にはとてもありがたい避難小屋である。小屋の方が「今日は風が強いので、山頂は登らないでほしい」との事なので登頂は諦める。初めての2人には申し訳ないが、また次の機会に登ることにして下山する。下山は新道コースを下ったが、風の影響をほとんど受けず下れたが、ハシゴ場が何か所か有り決して楽な下りではない。それでも風が無く空も明るくなり、皆さんお顔に余裕が出て会話が弾む。馬返キャンプ場まで下り、大きな東屋でランチタイムとする。お湯を沸かしてカップ

麺やスープを作り、パンや残った菓子をいただいた。お腹が満たされたら後片付けをし、トイレを済ませてから車に戻る。靴を履き替え荷物を積んだら車に乗り帰路につく。車の中でも皆さん元気で、会話が途切れることなく走り、我輩も眠くなることなく運転出来、無事に栃木市運動公園へ帰着した。

岩手山は2年前のリベンジを果たせなかったが、また来年何処かの山と組み合わせ再リベンジしたい。